

イトモズク（モズク）の人工母藻育成

【要約】 純粋培養したイトモズク配偶体（糸状体）を高照度下で換水を多くして培養することにより、発芽・生育させて母藻を得ることができた。

沖縄県水産試験場・増殖室				連絡先	098-994-3593		
部会名	水産	専門	養殖	対象	イトモズク	分類	指導

[背景・ねらい]

イトモズク養殖では、本養殖に先行して母藻を確保するための養殖が行われている。その元種は越夏培養した糸状体を使用しているが、成功率が低く、母藻確保に多くの労力を費やしている。使用する糸状体は発芽特性の判定法がなく、発芽不良の原因が不明である。

また、母藻養殖行程を省いて、糸状体を使用した本養殖も可能となり、イトモズク養殖を省力化し、生産コストを低減することが可能となる。

[成果の内容・特徴]

① 通常の手法で前培養したイトモズク糸状体を、温度、換水（滅菌海水）の条件別に培養を行った。

2～3日ごとの換水と25℃以下の温度条件で糸状体は発芽して直立藻体を形成した。

② 10日間換水の間隔があると発芽がなく、複子嚢の形成も少なかった。

③ 23℃、7,000LUX、3日ごとの換水条件区では糸状体の発芽が多数確認され、28日後には最大で50mmまで成長した。

[成果の活用面・留意点]

① 海面での母藻養殖行程を省略することができる。

② 発芽の有無を事前に確認できるので、網付けに使用する糸状体の良否を判別できる。

③ 高照度で培養するため、雑藻の繁殖が問題になることから、使用する糸状体は純粋培養株とする必要がある。

④ 培養海水は、大量の場合にはその確保が困難となるので、塩素殺菌海水か精密濾過機の導入が必要。

[具体的データ]

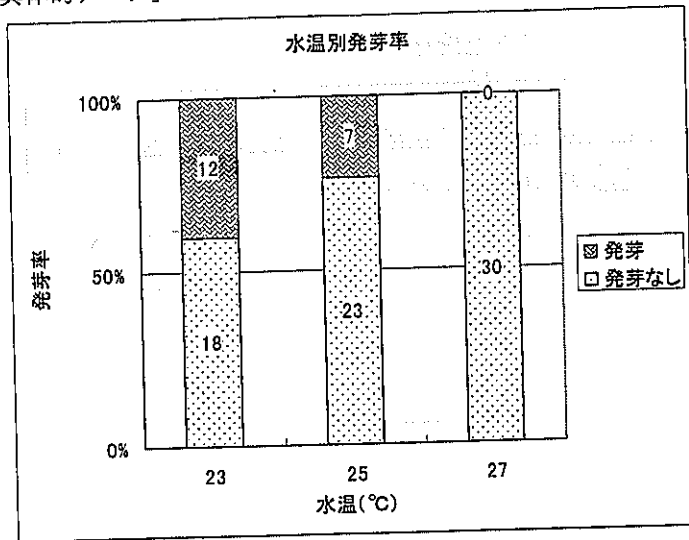


図1 培養水温別発芽率

表1 換水間隔と発芽率

試験区名	発芽数	発芽率	換水間隔	照度	明暗比
A	3/3	100%	2~3日	4000Lux	L:D=12:12
B	0/3	0%	10日	4000Lux	L:D=12:12

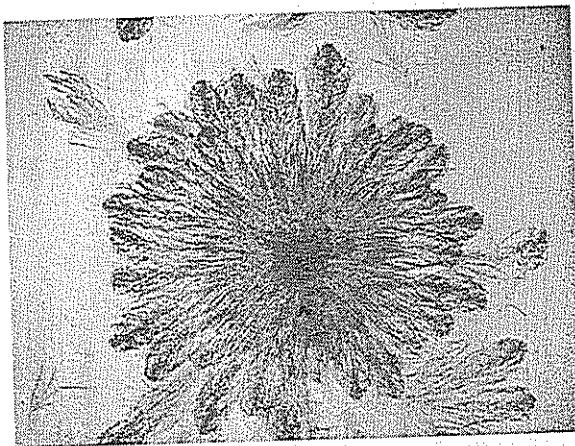


写真1 球形コロニーからの発芽・生長

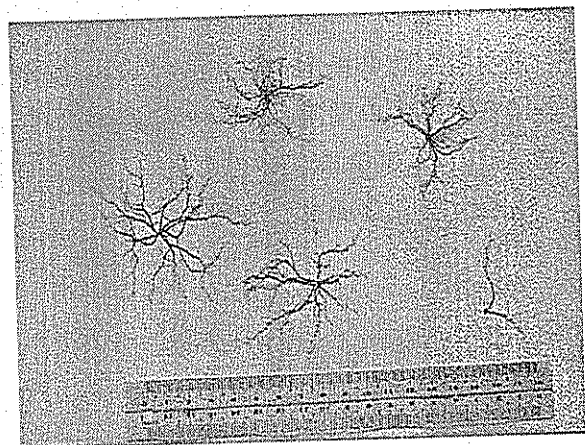


写真2 生長した発芽藻体

[その他]

研究課題名：海藻類増養殖試験

予算区分：県単独事業

研究期間：平成13年度（平成12年度）

研究担当者：諸見里聰、與那嶺盛次

発表論文等：平成12年度沖縄県水産試験場事業報告書